

「世界青年の船」事業の発展的見直し

グローバル化の進展
世界共通の課題
経済の停滞

経済・社会の発展、成長のために
全地球規模での対応が必要に

世界青年の船

【経緯】

昭和42年度から実施してきた「青年の船」を発展的に改組して、昭和63年度より開始

【事業概要】

日本と世界各国の代表青年が、船上での討論、セミナー、文化紹介等を実施。また、外国訪問を行い、青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神を涵養

船内での研修による短期間での成長と
強固な絆の育成

各都道府県、世界45か国に事後活動組織が設立。社会活動・国際交流活動を活発に展開

国境を超えた協力、調整、交渉等が不可欠。一方、若者は内向き志向。

グローバル人材育成は待ったなしの課題【成長戦略、骨太方針】

- ー危機に直面する少子高齢化社会・日本の未来への投資
- ーグローバル社会に向けた「海洋国家」日本の反転攻勢

26年度からの新たな事業

【趣旨・目的】

グローバルでタフなリーダーの育成

＜世界で活躍するタフな若者＞（外交上の効果も強化）

グローバル・リーダー：以下の両場面で活躍

国際的な場面

世界共通のルールや価値観を認識、異なる文化の人々と調整・交渉・協力しながら、高い実践能力を持って課題を発見し、解決する。

地域社会等

国際的な視野を持って、地域や分野を俯瞰し、責任感・使命感を持って地域社会の発展に貢献する。

短期集中で効果の高い人材育成

効果を各地域等に広く普及

抜本的見直し

他にはない
財産の活用

- グローバル・リーダーの活躍による経済等各分野の成長・我が国の発展
- 国際的視野を持つ地域密着型人材による地域活性化(Think Globally, Act Locally)
- 事後活動組織の活動等を通じた我が国外交、国際親善への一層の寄与